

令和元年度 熊本信愛女学院中学高等学校 学校自己評価表

令和元年度、本校は以下のような目標・方策をもとに、教育活動を実施しました。

※評価はA・B・C・Dの4段階

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする幼きイエズス修道会の教育理念に基づき、生徒の全人格的開発を目指す。 一人ひとりが主体性を確立し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして、自己形成を図ると共に、女性としての豊かな心をもって、社会の建設に貢献する人間を育成する。	総合評価
年度目標	1 一人ひとりの進路実現 2 グローバル人材の育成 3 規律ある生活態度の育成	B

	具体的目標	具体的方策	評価			総合評価
			1	2	年間	
宗教部	校内の宗教的環境の整備の徹底	宗教委員会の運営（朝終礼のお祈り・聖歌）	A	A	A	A
		教室掲示標語「月の言葉」	A	A	A	
		聖堂の管理と学校内の宗教的雰囲気作り	A	A	B	
	宗教行事の遂行の徹底	聖母祭	A	—	—	B
		華秋祭（クッキー販売・里子への募金活動・展示）	—	A	—	
		学院慰霊祭	—	A	—	
		クリスマス（聖劇・ミサ・里子への募金活動）	—	B	—	
	ボランティアセンターとの連携	熊本市社会福祉協議会主催 高校生夏のボランティア体験	A	—	—	A
		北部九州水害街頭募金（9月）	—	A	—	
熊本城マラソン（2月）		—	—	A		
教務部	授業時数の確保	出張等で授業が欠けないようにする。	C	C	C	B
		教科どうして授業時間を融通しあい、授業時間を確保する。	B	B	B	
		学校行事で授業が欠けないよう、短縮授業を実施する。	B	B	B	
	生徒・保護者への情報提供	保護者の参観授業を十分に時間確保する。	C	B	C	C
		夏季三者面談の時間をしっかりとる。	C	—	—	
		生徒と教師の二者面談の時間を確保する。	B	—	—	
	新教育課程編成準備	大学入学のための新テスト科目の調査	C	C	C	C
		学習評価の検討	C	C	C	
		主体的、対話的で深い学びについての検討	C	C	C	
	対外的行事	入学式・卒業式の円滑な実施	B	—	B	B
		保護者会・同窓会との緊密な連携	B	B	B	
		入試業務の的確な遂行	C	C	B	
生徒指導部	規律ある生活の徹底	制服、髪型など身だしなみの徹底	B	B	B	B
		挨拶などの徹底	B	B	B	
		定期的な生活検査と、事後指導の徹底	A	A	A	
		全校朝礼・終礼、または放送などによる生活全般における諸注意	A	A	A	
	いじめの防止	毎学期のいじめアンケート	A	A	A	A
		いじめアンケートの結果による早期の対応	A	A	A	
		全校朝礼・終礼、または放送などによるいじめ防止の啓発	A	A	A	
	交通事故の防止	日頃からの交通指導の徹底（歩行・自転車などのマナー）	B	B	B	B
		警察からの情報を適宜、生徒へ知らせる	B	B	B	
	防災意識を高める	日頃からの防災に対する意識付けの徹底	B	A	B	B
		定期的な避難訓練の実施（2学期）	—	A	—	

	具体的目標	具体的方策	評価			総合評価
			1	2	年間	
生徒会	生徒の自主的活動の促進	行事や生徒会活動が充実したものになるよう生徒会役員や生徒会担当の職員と綿密に連絡を取り合い、協議を行う。	B	A	B	B
		自主活動（華秋祭や各行事）を行う上で、何が必要でどれくらい準備期間が必要か生徒達に考えさせ、その都度整理整頓を行わせる。	A	B	A	
	生徒全体との活動の共有	生徒会アワーや生徒会新聞の発行により生徒会役員と生徒一人ひとりとの人間的な心の触れあいを深め、楽しく豊かな学校生活を目指す。	B	B	B	B
	常任委員会活動による規則正しい学院づくりと自主性の高揚	各常任委員会（ホームルーム、生活、美化、体育、保健、図書、宗教、交通の各委員会）の活発な活動を行うために常任委員会（年7回）や臨時の委員会を適宜行う。	A	A	B	A
	生徒議会の適宜開催によるより明るい学院づくり	必要に応じて生徒会長が生徒議会を招集する。				A
進路指導部	体系的な進路指導の推進	受験対策としての課外および高3（センター試験・個別試験）対策授業を継続して実施する。	A	A	A	A
		校外模試・小論文指導・面接指導を企画・立案し実施する。	A	A	A	
		2019年度大学入試の情報収集と分析による、高校3年生の進路実現のための徹底指導	B	B	B	
		大学説明会・職業講話・進路講演会などを計画・実施し、生徒の進路目標が明確になるように努める。	A	A	B	
	進路実現に向けての+αの学習や校外活動参加の促進	受験校決定や教職員間の情報共有のため、「5教科担当者会議」を定期的実施する。	A	A	B	A
		第一志望を大切にす進路指導（面談週間・文理分け説明会）	A	A	B	
		大学入試改革に向け、学内外での活動を活動履歴（プロセス・気づき・振り返り）にまとめる。	A	A	A	
		学習に対する意識を高めるため、毎日の学習時間を[CHALLENGE CHANGE]に記録させ、1週間毎に提出させる。	A	A	A	
		国公立大学医学部医学科志望の生徒に対する指導の強化	B	B	B	
	生徒・保護者に対する進路情報の積極的提供	九州大学の魅力を伝えるために、高校1年生での九州大学訪問	—	A	—	A
進路の手引き（1号・2号）・進路速報などを作成し、生徒・保護者に向けて進路に関する様々な情報を迅速に伝える。		A	A	B		
		進学資金講演会・大学入試改革説明会を実施する。	A	A	B	
広報部	適切な役割分担と組織運営	年度の実態に応じ、課題確認と業務の改善に努める。	B	B	B	B
		校務全体の円滑な推進のため、職員間の密な連携を図る。	B	B	B	
		業務記録、資料保存に努める。	B	B	B	
	校内活動の積極的な広報による志願者層の質と量の確保	学校案内、ポスター、チラシ、広告（新聞、雑誌等）、インターネットなど様々な媒体を通じた広報活動の充実と各中学校・塾に対するきめ細かい対応を心掛ける。	B	B	B	C
		各科コースの活動内容、実績、特色について、より具体的に明示し、志願者増（特に専願）へつなげる。	C	C	D	
		中学校・塾・個人宛の郵送物は計画的に準備し、迅速に対応することを心掛ける。	B	B	B	
研修部	研修体制の確立と実践	生徒の実態や自校の教育課題をふまえ、全教職員による校内研修会を行う。	B	C	C	B
		授業研修を充実させ、見学等の機会を設け、教育実践の向上を図る。	B	B	C	
		校外での研修を受ける体制を整え、全教職員が積極的に校内研修に参加し、自己の成長を促す。	B	B	B	

	具体的目標	具体的方策	評価			総合評価
			1	2	年間	
普通科特進コース	学習時間を十分に確保できる生活習慣の確立	学習記録の記入・提出をさせ、学習状況を振り返らせる。	B	A	A	A
		生活・学習改善の必要な生徒には、助言・支援を行う。	A	A	A	
		短・中・長期目標を設定させ、達成に向け計画を立てさせる。	B	B	B	
	大学受験に対応できる学力の育成	外部模試を活用した学力充実を行う。	A	A	A	A
		5(3)教科会議を行い、結果分析と対策を共通理解する。	A	A	A	
		課外を充実させ、必要に応じて適宜補習を行う。	B	B	B	
		センター試験を全員が受験する。	A	A	A	
	自分らしい社会貢献の模索	生徒との信頼関係を構築し、生徒理解に努める。	A	A	A	B
		適宜教育相談を行い、生徒の生き方を共に考える。	B	B	B	
		「どう生きるか」をベースにした進路指導を行う。	B	B	B	
	国公立大学、難関私立大学への合格実績	九州大学合格者2名以上	—	—	A	B
		熊本大学合格者10名以上	—	—	D	
国公立大学合格者20名以上		—	—	A		
普通科普通コース	落ち着いた学校生活	挨拶の徹底。服装・髪型をきちんとする。	B	B	B	B
		教室の整理整頓	B	B	B	
		遅刻・欠席者を減らす。(遅刻カード利用)	B	B	B	
		保護者との連絡を密にとる。	A	A	A	
	基礎学力の定着と向上	1年次英語、数学の習熟度クラス編成	A	A	A	A
		終礼後の自主学習	A	A	A	
		課題などの提出物の徹底	A	A	A	
		授業の工夫	B	B	B	
	生徒の個性に応じ、上級学校への進学を目指した進路指導とグローバル時代の要請に応じた国際理解教育の実施	1年次、大学や職業についての調べ学習・発表、特別授業など	B	A	A	B
		2年次、小論文対策。本校での大学説明会(進路部主催)	A	A	A	
		英検、GTECなどの検定試験推奨と対策 オンライン英会話の導入	B	B	B	
		受験に対する生徒・保護者向けの説明会(文理分け含む)	B	B	B	
生徒会活動、ボランティア活動、部活動への積極的な取組	生徒会活動への積極的な参加	A	B	A	B	
	ボランティア活動への積極的な参加	C	C	C		
情報ビジネス科	5つの凡事徹底	遅刻・欠席をしない。	B	B	B	B
		時間厳守と5分前行動	A	A	A	
		教室の整理整頓と清掃の徹底	A	A	A	
		提出期限と手続きの厳守	B	B	B	
		気持ちのよい挨拶と返事の励行	B	C	B	
	コミュニケーション能力の育成	相手の話をきちんと聞く。	C	C	C	B
		わかりやすく伝える。	B	B	B	
		他の人に働きかける。	C	C	C	
	基礎学力の向上	生活時間ノートの活用	B	B	B	B
		課題などの精度	B	B	B	

	具体的目標	具体的方策	評価			総合評価
			1	2	年間	
高校1学年	提出期限・時間の厳守と生活リズム・自学の習慣の確立	「生活と学習の記録」に目標や期限、生活の記録をさせて、毎週一回は担任がチェックし、コメントを記入して返却する。	A	A	A	B
		定期考査、スタディサポート、模試の結果を受けて、現在の課題を解決し、成績上昇へと指導する。	C	C	C	
		課題、宿題の期限内提出状況をチェックして徹底する。	A	B	A	
		保護者にも生活リズムの確立を訴える。	B	A	A	
	校則の遵守	毎朝礼にて担任は生徒の服装、表情を確認して、必要に応じて、声掛けをする。	B	A	B	B
		生活と学習の記録で生活のリズムが乱れていないかチェックする。	A	A	A	
		本校のカトリック精神を生徒に伝える。	A	A	A	
	いじめの防止等	各担任は生徒の言動、表情、クラスの雰囲気敏感となり、情報収集をしていじめに発展する行動を未然に防ぐ。	A	A	A	A
		不登校の生徒を、担任を中心に養護教諭の協力を得ながら学年全体でバックアップする。	A	A	A	
	コミュニケーション能力の育成	集団行動時、クラスを越えて意思疎通を図る機会を設ける。	A	B	B	B
自分の意見を発信するよう生徒を励ます。		B	B	B		
総合的探究の時間等で全職員が協力してプレゼンする。		B	A	A		
高校2学年	規律ある生活	挨拶（教師からも挨拶を行い、気軽に生徒に声掛けする）	C	C	C	B
		授業の始まり、終わりの礼儀（教師が間をとって、支援する）	B	B	B	
		5分前行動（教師からの声掛け）	B	C	B	
	積極的な行動力と協調性	行事・ボランティア活動・部活動といった活動に参加の呼びかけをする。	B	A	B	B
		良いところを探し支援する。	B	C	B	
	主体的に学ぶ姿勢の定着	担任（教科担当者）による面談で様々な角度から支援を行う。	B	A	A	B
新聞等を通じて、興味・関心を持ったことを調べさせる。		B	C	B		
高校3学年	生徒の進路希望の実現	担任による二者面談	B	B	B	B
		生徒の進路希望等を教科担当者と情報共有する。	B	B	B	
		面接指導を行う。	B	A	A	
	規律ある学校生活	朝礼、終礼時にけじめをつけさせる。	B	C	B	B
		学年朝礼時に生徒の意識を高める講話を行う。	B	B	B	
	保護者、後援会との連携	学年通信の発行	B	C	D	C
卒業式へ向けての後援会との連絡		B	B	B		
中学校	基本的な生活習慣の確立	毎日元気に登校するために、規律ある生活を意識させる。	C	C	C	C
		挨拶、清掃、時間厳守、授業集中の重点項目の指導の徹底	C	C	B	
		面談、スコラ手帳、一週間のふり返しシートなどを活用し、生活指導の充実を図る。	B	B	B	
	基礎力充実に重点を置いた教科指導	授業を基本に据え、基礎学力の向上を図る。併せて家庭学習による主体的な学びを習慣化させる。	A	A	A	A
		課外授業の充実	A	A	A	
		ICTを活用した授業支援のための環境整備	B	B	B	
	日常生活、行事、ボランティア活動を通じての人間形成	朝終礼での祈りや授業前の黙想を通して、自己と向き合うことを習慣化させる。	B	A	A	B
		宗教行事、ロザリオの祈りを通じて、祈る心を養う。	A	A	A	
		全校で地域清掃ボランティア等に取り組む。	B	C	C	
	生徒会活動を通じての自主性の養成	常任委員会活動の活性化	B	B	B	B
		生徒会が企画する活動が、生徒の主体性や統率力、協調性を育む場になるよう、支援的な指導を行う。	B	A	A	
	総合学習を通じての国際文化理解と円滑な人間関係の構築	野外活動や学習発表会を通して、自他のつながりの大切さを知りよりよく成長する場になるよう、支援的な指導を行う。	A	A	B	A
総合学習の授業では、諸外国の文化や習慣を尊重し、理解することを主眼にし、異文化理解力の向上を図る。		A	A	B		

	具体的目標	具体的方策	評価			総合評価
			1	2	年間	
保健室	基本的な生活習慣の確立	生活習慣について話をするだけでなく、不調の原因と改善方法を、生徒自身が考えられるように支援する。	B	A	A	B
		生活習慣の乱れが続く場合は、担任との連携を図る。	B	B	B	
		必要な場合は、保護者にも連絡して学校での様子を伝え、また家庭での様子を伺い、家庭と協力して指導にあたる。	B	B	B	
		修学旅行前には、生活習慣について指導する。	—	—	C	
	定期健康診断の円滑な実施	事前に、学校医や学校歯科医、関係機関等との打ち合わせを綿密にする。	A	—	A	A
		各項目実施前には、担任や他職員への連絡を十分に行う。	A	—	A	
		実施後は、早めに結果を保護者に通知し、必要に応じて受診を勧める。また、定期的に受診を勧めていく。	B	B	B	
		心臓病や腎臓病等で定期受診中の生徒へは受診を促し、また、受診結果の提出を求める。	A	A	A	
	個別支援の充実	保健室来室時に悩みを話したり、不調の原因が精神的なことが関係したりする場合、しっかり話を聞き、必要に応じてカウンセリングを勧める。	B	A	A	B
		担任と情報交換を図り、連携して対応にあたる。	B	B	B	
		月に1回、校内支援委員会を実施する。	A	A	A	
		必要に応じて、生徒や保護者をSCやSSWへつなぎ、状況の把握と改善に努める。	B	B	B	

令和元年度 熊本信愛女学院中学高等学校 学校評価

◎学校生活について、生徒及び保護者へのアンケート結果

①非常にそう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④全くそう思わない

※生徒による評価		①	②	③	④
1	熊本信愛女学院で学ぶカトリック精神が、日々の生活からうかがえる。	69.0%		20.4%	
2	礼儀やマナーを重んじる教育が行われている。	87.3%		8.8%	
3	落ち着き、集中して授業に取り組める環境である。	82.3%		14.2%	
4	それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・指導が行われている。	75.2%		17.0%	
5	体育祭・文化祭・修学旅行・クラスマッチ等、行事が盛り上がる。	88.2%		10.6%	
6	熊本信愛女学院に入学して良かった。	74.4%		15.0%	

※保護者による評価		①	②	③	④
1	熊本信愛女学院で学ぶカトリック精神が、日々の生活からうかがえる。	74.2%		18.4%	
2	礼儀やマナーを重んじる教育が行われている。	91.1%		5.6%	
3	落ち着き、集中して授業に取り組める環境である。	85.3%		7.6%	
4	それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・指導が行われている。	76.5%		13.8%	
5	体育祭・文化祭・修学旅行・クラスマッチ等、行事が盛り上がる。	91.5%		6.7%	
6	熊本信愛女学院に入学させて良かった。	87.0%		7.3%	

学校評価アンケート分析

「礼儀やマナーを重んじる教育」「落ち着き、集中して授業に取り組める環境」の項目の生徒評価は高い。保護者の評価は更に高いものであり、このことは熊本信愛女学院が、カトリック精神を基盤とした120年に及ぶ歴史と伝統の中で培ってきたものが校風として確立し、それに基づいて教育活動が行われていることを証している。「体育祭・文化祭・修学旅行・クラスマッチ等の行事」もまた生徒・保護者ともに高い評価である。前二者が日常的な「ケ」に属するとすれば、こちらは「ハレ」に属すると言え、本校の教育活動が「ハレ」と「ケ」の相乗効果によって効果的に行われていることを表している。今後もこの好循環が高まるように取り組むとともに、「将来を見据えた進路学習・指導」をさらに充実させながら、「熊本信愛女学院に入学して良かった・入学させて良かった」の項目がますます高まるように努めていきたい。

学校評価委員からの意見

- ・大学進学実績が、他の私学と比較すると健闘しているので、アピールできないか。
- ・学校の方針を保護者により理解してもらい、今まで以上に内側から情報を発信できないか。
- ・活躍している同窓生も多いので、うまく活用できないか。
- ・基本的なマナー教育やボランティア活動を、より一層浸透させて欲しい。
- ・生徒たちの明るさを、もっと広報できないか。